

# スピリチュアル物語

## 42話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

### 魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

トランスマリオット内スターボックス(要予約):1時間 \$60

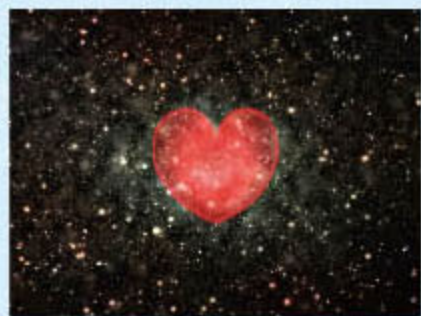
メール相談:(要予約):majyotomoe@gmail.com \$16/1件(Paypal)



「それぞれに真実の記憶?」  
ウィザットが更に小首を傾げる。「そうじゃ。同じ事実に対して、人はそれぞれに違う感想を持つ為、違う真実が各々の記憶となつて残るんじゃない」「じゃあ人により想い出は違うんでしょうか」「マジリアルが数分前にした質問と同様の質問を繰り返す。「そうじゃな。しかも、時が経つにつれ、好い感想を持った出来事、つまり楽しい印象の想い出は更に美化され、好ましくない感想、つまり嫌な印象の想い出は更に悲劇へと変化することもある。或いは、自分が相手にしたこと  
は忘れても、された側が執拗にそれを反芻し、反芻する内に事実とは異なる事柄が加味され、恰もそれが

本当にあつた事実の様に思  
い込むこともある。しかも、相手にはそんな積りは全くなかつたことでさえ、  
された側の感想が悪ければ、それは酷いことをされた、という被害者の記憶としてずつと残つてしまつてもあるんじゃない」「それつて少し病的な感じがするなあ」「ウィザットの言葉に、「では、君はAさんが言ったことをBさんに話す際、一字一句、更にはAさんの口調・表情・声のトーン・話すスピード、それら全てを正確に再現することが出来るかな?」「マグワートが優しく問い掛ける。「そんなの無理だよ」「そうじゃろ。人間は、事実が記憶となつた途端に、それは事実の完全コピーではなくなり、自

分というフィルターを通したものになつてしまふんじゃないよ」「人の記憶程あてにならないものはないな」「ウィザットが眉を寄せる。「じゃが、それが人間たる所以じゃよ。事実をどう捉えるか、それこそが人の心模様とも言える訳で、そこに機械とは違う温かみがあるんじゃない。事実と同じでも悪い感想を持つか好い感想を持つか、それにより、真実が変わってくる。機械とは違い、愛という意識を持つことも出来るんじゃない」



★これまでのお話(1~41話)は魔女ともえのwebで読むことができます。

[www.majotomoe.com](http://www.majotomoe.com) 9月8日号につづく!